

はじめに

L^AT_EX と TikZ と tcolorbox で作ったおしゃれな見出しを紹介する。

TikZ や tcolorbox で見出しを作る場合、section コマンド等を再定義することになる。section コマンドはアスタリスクの有無で見出しを目次に追加するかどうかを指定でき、オプション引数で目次での見出しの内容、通常の引数で目次の内容を指定できる。よって section コマンドを再定義する場合、上記のように引数を処理し目次に追加した後、対応する章番号を 1 増やす処理が必要である。そのような処理の例を次に示した。

```
1 % \usepackage{xparse}
2 \RenewDocumentCommand\section{s o m}{
3   \par
4   \refstepcounter{section} % カウンタをインクリメント
5   % スター付きでないなら目次に追加
6   \IfBooleanF{#1}{
7     \IfNoValueTF{#2}{
8       \addcontentsline{toc}{section}{#3}
9     }{
10      \addcontentsline{toc}{section}{#2}
11    }
12  }
13  % ここにセクション本体を書く
14 }
```

また、見出しは基本的にページの一番最後に来ないことが望ましい。tcolorbox で作った box がページの最後に来ないようにするには次のようにオプションを追加する。

```
1 \begin{tcolorbox}[
2   after={
3     % ページの最後に来ることを回避
4     \tcb@parfillskip@check
5     \par\nointerlineskip
6     \nobreak
7     \vspace{1\zh} % ボックス後ろの余白
8   },
9 ]
10 % ここにボックスの中身を記述
11 \end{tcolorbox}
```

次のページから見出しの例を追加する。例では section コマンドを再定義するのではなく、章番号や見出しの内容をハードコーディングした。ソースコードは tex ファイルを参照。

第 7 章

吾輩は猫である

この書生の掌の裏でしばらくはよい心持に坐っておったが、しばらくすると非常な速力で運転し始めた。書生が動くのか自分だけが動くのか分らないが無暗に眼が廻る。胸が悪くなる。到底助からないと思っていると、どさりと音がして眼から火が出た。それまでは記憶しているがあとは何の事やらいくら考え出そうとしても分らない。

7.1 セクション

この書生の掌の裏でしばらくはよい心持に坐っておったが、しばらくすると非常な速力で運転し始めた。書生が動くのか自分だけが動くのか分らないが無暗に眼が廻る。胸が悪くなる。到底助からないと思っていると、どさりと音がして眼から火が出た。それまでは記憶しているがあとは何の事やらいくら考え出そうとしても分らない。

7.1.1 サブセクション

この書生の掌の裏でしばらくはよい心持に坐っておったが、しばらくすると非常な速力で運転し始めた。書生が動くのか自分だけが動くのか分らないが無暗に眼が廻る。胸が悪くなる。到底助からないと思っていると、どさりと音がして眼から火が出た。それまでは記憶しているがあとは何の事やらいくら考え出そうとしても分らない。

-
- デザイン参考：『はじめてのパターン認識』
 - 実際は別のフォントを使用